

ランドレースの飼い方 (その4)

県酪農試験場 多田昌男

10、繁殖供用時期

ランドレースの繁殖供用開始は、雌雄とも生後7～8ヶ月で、体重110kg以上になってからがよく、種雄豚の交配又は精液採取は、最初、週1～2回程度にとどめる。スウェーデンでは種畜の供給が充分できる関係から3年くらいで更新しているが、普通雌雄とも5～6年くらいした供用後、更新するとよい。

発情周期は、初産の調査では最短15日、最長28日、平均21.1日である。発情中の雄許容は大体2～3日であるから、発情豚に乗駕しても静止している時期をみはからって交配する。受胎率は初産から3産まで67頭の調査では、初回73.1%、2回14.9%で、2回種付までに88%が受胎している。

ランドレースの妊娠期間は、最短100日、最長120日、平均113.8日である。最長、最短の場合、全頭黒子あるいは死産が多く、1腹5頭以上分娩するのは111日から116日間で、正常多頭分娩は113日から115日である。

11、分娩管理

濃厚飼料の給与は、分娩予定日1週間前くらいから予定日を目標に、半減するようだんだんと減量する。

分娩直前になると、乳産が腫脹し、乳房全体が熱を持ち、乳頭を圧すると乳汁がでるようになる。又乳座は滑らかとなり、乳頭が柔らかくなり、陰門膨開して粘液を漏出するようになる。敷わらを集めて産褥を作る動作をし、飼料を食べなくなると半日くらいの間に分娩を始める。

分娩開始時期は、個体によって様でないが、初産では12～18時の昼間が多く、2産以降では、夜中の零時から朝の6時までが多かった。分娩所要時間は、3時間以内が60%を占め、平均3時間20分くらいである。長いものは8時間、或は翌日1頭分娩することがある。胎盤重量は、生産子豚頭数が多いものが重くなっているが、平均2.4kgである。

生まれた子豚は速やかに、布切れあるいはわら等で拭き、臍帯は4～5cmくらいで切り消毒薬を塗布する。臍帯を結札する場合は1～2cmで行い、切除した後消毒薬を塗布する。

生時の体重を秤量し、全頭出揃った後哺乳する。分娩が長い時は途中で哺乳させることもある。

従来、豚の分娩については、分娩直後から子豚を取上箱に分け、最低3日から5日、2時間置くらいに母乳に付けて、子豚の圧死を防止していた。しかし最近のように労力不足になると、毎日子豚に付いているわけには行かない。正常な分娩であれば、監視しなくても子豚自身が敷わらで体を拭い、母乳につくようになる。

このような管理を行うと、幾分子豚の圧死があるが、ランドレースは生後50日の離乳までの育成率は87.5%である。しかし、労力があれば、できるだけ分娩監視を行い、哺乳を行うとよい。又分娩監視を行わない場合、圧死防止の手段として、分娩棚、分娩用ケージを用いると、育成率を上げることができる。

12、子豚の育成

1頭の母豚につける子豚頭数は、母豚の栄養状態、産次、泌乳能力、乳頭数、飼料条件等により様でないが、普通初産8～10頭程度で、経産になると12頭程度までつけられる。あまり多くつけると子豚が不揃いとなり、母豚もいたみやすく、保育率が低下する。

哺乳子豚の発育を促進させる目的で、最近冬季温源として赤外線ランプを用いているが、150～250Wがよく、このほか電熱球、湯タンポ等がよい。分娩直後から、子豚豚房内で新鮮な腐植土を与えてやると更に発育がよくなる。

臍帯は1～3日で乾いて落ち、7～10日で生時体重の2倍以上になる。子豚の犬歯上下8本は、最初の哺乳を行う前に鋏で根本から切除する。特にランドレースはこの犬歯が強いので、是非切除する。

岡山畜産便り 1963.12

生後2週間頃から飼料を食い始めるから、子豚用の粉餌あるいはペレット等を自由に食べられるように与えてやる。又生後30日頃から、良質の青草類を少しづつ与える。

子豚の飼料は1日4~5回与え、全頭が充分食べられるだけの飼槽を取りつけてやる。運動日光浴は、生後1週間位から温暖な日に行うようにする。

去勢は体重7kg程度、生後30日頃がよくおそくとも6週間頃まで行う。

子豚の離乳は、生後50日を目標に、子豚の発育状態により多少加減する。離乳は、徐々に離す方法、急に離す方法、発育のよいものから離す方法の3つの方法があるが、子豚が揃っている場合、一度に離乳した方が母豚のためによい。

子付母豚の飼料は、子豚の発育につれて、だんだんと増量し、日量2kg程度の青草を与える。

ランドレース子豚の発育成績は、「第10表」のように中ヨークシャーより優れている。雌雄の発育は、生後6ヵ月頃までは大差なく、その後雄が大きくなっている。

次に初産から3産までの母豚67頭から生産された子豚の1腹平均産子数は、「第11表」のように10.6頭、死産率は12.7%、50日令の育成率は87.5%である。

生産された子豚の乳頭出現率をみると、14個が最も多く、49.6%である。次で15個22.9%、13個10.9%、16個9.3%で、最高18個で0.7%である。

13、ランドレース及び一代雑種の発育成績

当場において38年度実施の、ランドレース及びランドレース雄と中ヨークシャー雌との一代雑種発育成績は、次のとおりである。

子豚が体重20kgまでに要した日数は、ランドレース60日、一代雑種54日で6日の差があった。20kgから90kgまでの日数は、ランドレース、一代雑種ともに110日で差がなく、飼料要求率はランドレース3.33kg、一代雑種3.36kgで大差は見られなかった。

以上の成績の細かい数字は、「第12表」のとおりであるが、従来の中ヨークシャーより、ランドレース、一代雑種ともに発育速度が早くなっている。又1日平均増体量も多く、中ヨークシャーより飼料量

が少なく大きくなっている。

肉の状態において、背脂肪厚がランドレースはうすく、一代雑種が厚くなっている。しかし脂肪の質、肉の色の状態では一代雑種が優れている。ランドレースは早熟性のため、やや肉質が水っぽい感があるので、肉として出荷する場合は、100kg程度まで飼育した方が有利と考える。一代雑種においては中ヨークシャーと同じく90kg程度がよい。生体重に対する枝肉歩留は、共に70~73%程度である。

以上ランドレースの飼い方について、試験成績を参考にして述べたが、今回までに説明できなかった問題については、今後隔月位で、その時期の管理技術について述べたいと思う。(おわり)

第10表 ランドレース子豚の発育成績 (体重Kg)

区分	生時	20日	30日	50日	60日	80日	90日	100日
平均	1.4	5.2	7.3	15.0	18.3	26.1	27.3	42.7
最高	2.2	8.7	13.2	24.1	25.1	38.5	47.4	48.0
最低	0.6	1.8	3.5	6.5	9.0	13.8	15.0	33.0

第11表 ランドレースの生産数と育成率

区分	母豚頭数	一腹産子数(死産含む)						生産一腹産子数						育成率%
		最少		最多		平均		最少		最多		平均		
		ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
初産	25	3	17	6.0	4.4	10.4	3	14	5.2	4.1	9.3	86.8		
2産	23	1	16	5.2	5.0	10.2	1	15	4.7	4.6	9.3	87.9		
3産	19	3	18	5.5	6.0	11.5	3	15	4.1	5.0	9.1	88.0		
計	67	1	18	5.6	5.0	10.6	1	15	4.7	4.5	9.2	87.5		

第12表 ランドレースと一代雑種(L♂×Y♀)の産肉検査成績 (体重20~90kgの間の平均値)

区分	頭数	検日	定90日	時1日増体量	平均消費量	飼料要求率		背脂肪平均量	備考
						kg	kg		
ランドレース	3	110	170	636	232.8	3.33	2.9	メス1, スキ2	
一代雑種	4	110	164	636	235.5	3.36	3.8	メス2, スキ2	
中ヨークシャー	151	132	214	535	260.0	3.70	3.7	農林省検定成績	